

建設環境委員会行政視察報告書（令和6年7月10日～11日）

日 時：令和6年7月10日（水） 13時から
視 察 先：長野県上田市
視察事項：温室効果ガスの排出量削減等のための再生可能エネルギーの導入に関する施策について【環境省脱炭素先行地域に選定された際に提案された計画について（ローカル鉄道と市民がともに支え合う「ゼロカーボン×交通まちづくり」）】
内 容 質問事項 1. 上田市地球温暖化対策地域推進計画の市民への広報について伺う。 2. 上田市ゼロカーボンシティ実現市民会議（仮称）の役割や参加対象など、会議についての詳細を伺う。また、すでに会議を開催されているのであれば、参加人数やこれまで行われてきた会議の内容についても伺う。 3. 上田電鉄別所線沿線における、太陽光発電・大型蓄電池を活用した効率的なエネルギーマネジメントにより、脱炭素化の推進を図ることについて、その計画の詳細を伺う。 4. 住民の高いマイカー依存度を低減させるため、乗車時に使用できるポイントを付与するとあるが、その詳細を伺う。 5. 上田電鉄沿線の避難所指定公共施設と自営線を接続することで停電時に自営線からの供給を可能とするマイクログリッドを構築し、災害レジリエンスを強化とあるが、そのための取組の詳細を伺う。 6. 市内に数多く点在する、ため池を活用するモデルとして、フロートソーラー発電についてどのように取り組んでいくのか伺う。 7. 自治会等との合意形成のためのプロセスについて、どのように取り組んでいくのか伺う。 8. 地域エネルギー会社の収益の社会的投資の最大化について、今後のどのように取り組んでいくのか、その詳細を伺う。
視察を終えて 上田市で温室効果ガスの排出量削減等のための取組について視察を行いました。 別所鉄道の現在は使っていない複線や市内の溜め池、さらには民家や公共施設等に太陽光パネルを設置し、発電量に加えて必要なエネルギーをまかない、送電線については既存の鉄道用送電設備を活用して、もう1本送電線を新設するなど、蓄電池を活用して非常時の電力確保もする。 また、QRコード決済のポイント付与を活用する事により、マイカー通勤から、シェアサイクルや鉄道の利用を促進させ、スマートシティを実現して二酸化炭素排出量を削減する取組も理解できました。既存の鉄道設備を利用して再生可能エネルギーの送電線を確保する手法は東大和市にも鉄道設備がありますので参考になりました。

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。

建設環境委員会行政視察報告書（令和6年7月10日～11日）

日 時：令和6年7月11日（木） 午前9時30分から
視 察 先：長野県松本市
視察事項：温室効果ガスの排出量削減等のための再生可能エネルギーの導入に関する施策について【環境省脱炭素先行地域に選定された際に提案された計画について（のりくら高原「ゼロカーボンパーク」の具現化）】
内 容 質問事項 1. 小水力発電の仕組と効果について伺う。 2. 誰もが気候変動を理解し、脱炭素型ライフスタイルへ転換することについて、その目的を伺う。 3. 松本平ゼロカーボン・コンソーシアムの取組の詳細について伺う。 4. 陸上風力発電の仕組、効果について伺う。 5. 国や県と松本市の CO₂削減の分野の連携について伺う。 6. 松本市ゼロカーボン実現条例制定に至った経緯について伺う。 7. まつもとゼロカーボン実現計画について、基本方針の暮らしや経済、その基盤となる自然を守り育てるための適応策の実施について、市独自の対策を検討、着手可能なものから速やかに対策を実施とあるが、現段階で着手可能なものとは何か、その詳細について伺う。 8. 「令和4年度まつもとゼロカーボン実現の取組状況」における「個別施策の取組状況（緩和策）」にて、プラスチックごみの減量の推進については、指定ごみ袋の素材転換を検討とある。松本市町会清掃用ごみ袋はバイオマスプラスチックが25%配合された材質に変更したが、指定ごみ袋への導入は安定的な原材料の確保や製造コストの大幅な増加などが考えられ、今後の課題のようだが、その製造コストの詳細について伺う。
視察を終えて 松本市は国（環境省）の脱炭素先進地域の認定を受ける事で、観光地としての世界的な知名度を上げて、訪日外国人旅行者等が松本市を訪れる契機とすることなどを目的の一つとして、信州大学を中心とした近隣地域全体で、脱炭素先進地域として行っている取組を視察しました。 また、山林の保護や維持については、枯れ木の問題等が当市と共通の課題であることを確認しました。 脱炭素の取組を世界に発信して、地域力を上げていく方向性で官民が一体となっており、その中でも地域の様々な会社や団体の力を結集していく方向性について学ばせていただきました。 当市も地元の企業や団体と連携して脱炭素の取組を推進していく上で、学術機関を中心に、その方向性をまとめていく手法は参考になりました。

※視察の資料等については、議会事務局に保管してあります。